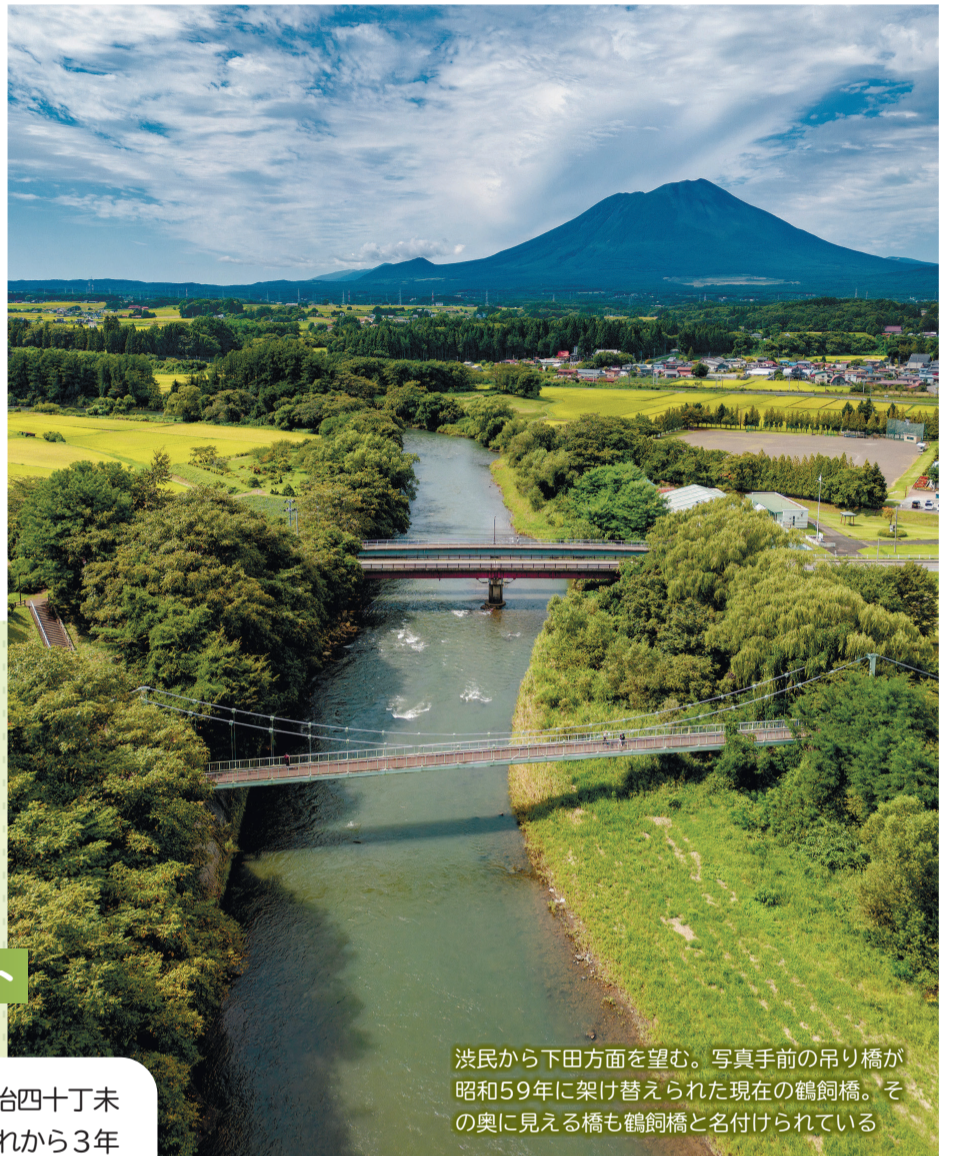


盛岡の歴史、暮らし、人々を

つなぐ橋

清らかな川が幾筋も流れる盛岡には、多くの橋が架かっています。橋は道であるだけでなく、人や歴史、暮らしなど、さまざまなものをつなぐ役割を果たしてきました。そんな橋を通して、盛岡の魅力を再発見してみましょう。

【担当】広聴広報課 ☎613-8369



渋民から下田方面を望む。写真手前の吊り橋が昭和59年に架け替えられた現在の鶴飼橋。その奥に見える橋も鶴飼橋と名付けられている



啄木 つなぐ ふるさと

川上に姫神山、
川下に岩手山を望む
啄木お気に入りスポット

鶴飼橋は、石川啄木が幾度となく渡った橋です。特に山影が川面に映る午後4時頃の橋からの眺めを好んだといい、北上川の流れを耳に詩作を練ることもありました。

啄木の時代、このあたりは蛍狩りの名所でした。啄木が渋民を舞台に書いた小説「鳥影」では、蛍が飛ぶ鶴飼橋の様子が描かれています。また、啄木は自分の影を踏みながら夜の鶴飼橋へ行き月を眺めたといい、詩「鶴飼橋に立ちて」には静かに差す月の光が糸のように揺らぐ様子が幻想的に表現されています。

啄木が最後に鶴飼橋を渡ったのは明治40年5月3日のことで、啄木はこの日の日記に「いと静かに、いと美しく横はれり。北上川の川岸の柳、目もさむる許りに浅緑の衣つけて、清けき水

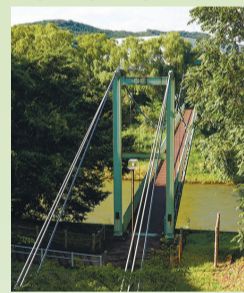
に春の影を投げたり。」(「明治四十丁未歳日誌」と記しています。それから3年後、東京にいた啄木は、ふるさとの景色を思い浮かべて「やはらかに柳あをめる北上の岸邊目に見ゆ 泣けとごとくに」(歌集『一握の砂』収録)という歌を残します。これは渋民を出るとき最後に目に焼き付けた風景を詠んだ歌と解釈できます。そして、その風景を眺めるために立った場所が鶴飼橋でした。

今なお啄木文学の原風景が残る渋民。鶴飼橋の上から、啄木文学に思いをはせてみてはいかがでしょうか。



石川啄木記念館学生会
藤田 麗さん

▶ 渋民公園から見た現在の鶴飼橋。かつての吊り橋をイメージしてつくられた



石川啄木記念館提供

明治後期の木製の鶴飼橋

周辺情報 渋民公園

公園内には「やはらかに…」の歌が刻まれた啄木第一号歌碑や、啄木ブレンドコーヒーを味わえる「喫茶 緑青」があり、啄木文学さんぽにおすすめ



▲啄木第一号歌碑



▲喫茶 緑青
渋民字鶴塚5-5 (渋民公園内)
☎090-6130-2190



喫茶緑青のブログ

不定休※ブログでご確認ください

鶴飼橋 DATA 完成/昭和59年 形式/吊り橋 橋長・幅員/78×2m

市ホームページ
<https://www.city.morioka.iwate.jp/>



市政ラジオ
「ウィークリー
もりおか」

ラジオもりおか (FM76.9MHz)
毎週金曜、7時50分～7時55分
再放送/10時30分～10時35分

[市公式SNS]

X (旧Twitter)
@moriokashi



Facebook
@moriokashi



LINE
@moriokacity



発行/盛岡市 〒020-8530 盛岡市内丸12-2 ☎019-651-4111(代) FAX019-622-6211
編集/市長公室広聴広報課 ☎019-613-8369(直通) info@city.morioka.iwate.jp

目次	1-3 盛岡の歴史、暮らし、人々をつなぐ橋
	4-5 こどものこと、あなたのこと、はなしてみませんか？
	6 こどもまんなか応援サポーター、里親制度、児童虐待防止
	7-9 市の決算、上下水道局の決算、市立病院の決算
	10 身近な介護サービス～地域密着型サービス～
	11 特定保健指導、盛岡城のいろは
	12-13 イベント情報
	14-15 もりおかインフォ、休日救急当番医
	16 市勢振興功労者